

# DAIFUKU

Automation that Inspires

株式会社ダイフク <6383>  
2024年3月期 第3四半期  
(2023年4月1日 ~ 2023年12月31日)

## 決算説明資料

2024年2月8日



# 目次



02 決算サマリー

03 連結決算

16 トピックス

## 2024/3期 Q3実績

(億円)		前年同期比
受注高	4,481	▲1,516 ▲25.3%
売上高	4,373	+17 +0.4%
営業利益	370	▲30 ▲7.7%
営業利益率	8.5%	▲0.7pt

- ✓ 受注高は、為替影響による前年度増加分の剥落や、半導体・液晶生産ライン向けを前倒し受注した反動減により減少したものの、ほぼ計画通りで推移。
- ✓ 売上高は、一般製造業・流通業向け、半導体・液晶生産ライン向けが前期の実績に届かなかったものの、EV関連投資や航空旅客数の回復の恩恵を受ける自動車生産ライン向け、空港向けがカバーし、Q3累計期間として過去最高を記録。
- ✓ 営業利益は、北米の一般製造業・流通業向けにおいて原材料・人件費のコスト増の価格転嫁の進展で収益性が改善、また自動車生産ライン向けの増収・収益性改善により、計画を上回って進捗。

## 2024/3期 通期予想

(億円)		前期比	11月公表計画比
受注高	6,300	▲1,074 ▲14.6%	—
売上高	6,050	+30 +0.5%	—
営業利益	570	▲18 ▲3.2%	+25
営業利益率	9.4%	▲0.4pt	+0.4pt
親会社株主に 帰属する当期純利益	415	+2 +0.6%	+10

- ✓ オセアニアの一部案件における一過性コストの計上による影響はあるものの、Q3までの実績が計画を上回って進捗していること、およびQ4見通しを踏まえ、利益を上方修正。
- ✓ 売上高・親会社株主に帰属する当期純利益は、過去最高となる見込み。

# 連結決算



(億円)	2023/3期Q3	2024/3期Q3	前年同期比		2024/3期 通期予想		ご参考 2023/3期 通期
			増減額	増減率	2023年11月 公表	2024年2月 公表	
受注高	5,998	<b>4,481</b>	▲1,516	▲25.3%	6,300	6,300	7,374
売上高	4,356	<b>4,373</b>	+17	+0.4%	6,050	6,050	6,019
営業利益	401	<b>370</b>	▲30	▲7.7%	545	570	588
営業利益率	9.2%	<b>8.5%</b>	▲0.7pt	—	9.0%	9.4%	9.8%
経常利益	407	<b>392</b>	▲14	▲3.5%	555	595	597
親会社株主に帰属する四半期純利益	287	<b>274</b>	▲13	▲4.6%	405	415	412
一株あたり四半期純利益* (円)	76.08	<b>73.22</b>	▲2.86	▲3.8%	108.36	111.03	109.11

為替レート (円)	2023/3期Q3	2024/3期Q3
USドル	129.48	139.56
中国元	19.46	19.72
韓国ウォン	0.1011	0.1067

## 為替影響

受注高 ▲35億円

期中受注分 +146億円

前期末受注残高変動額 ▲182億円

売上高 +144億円

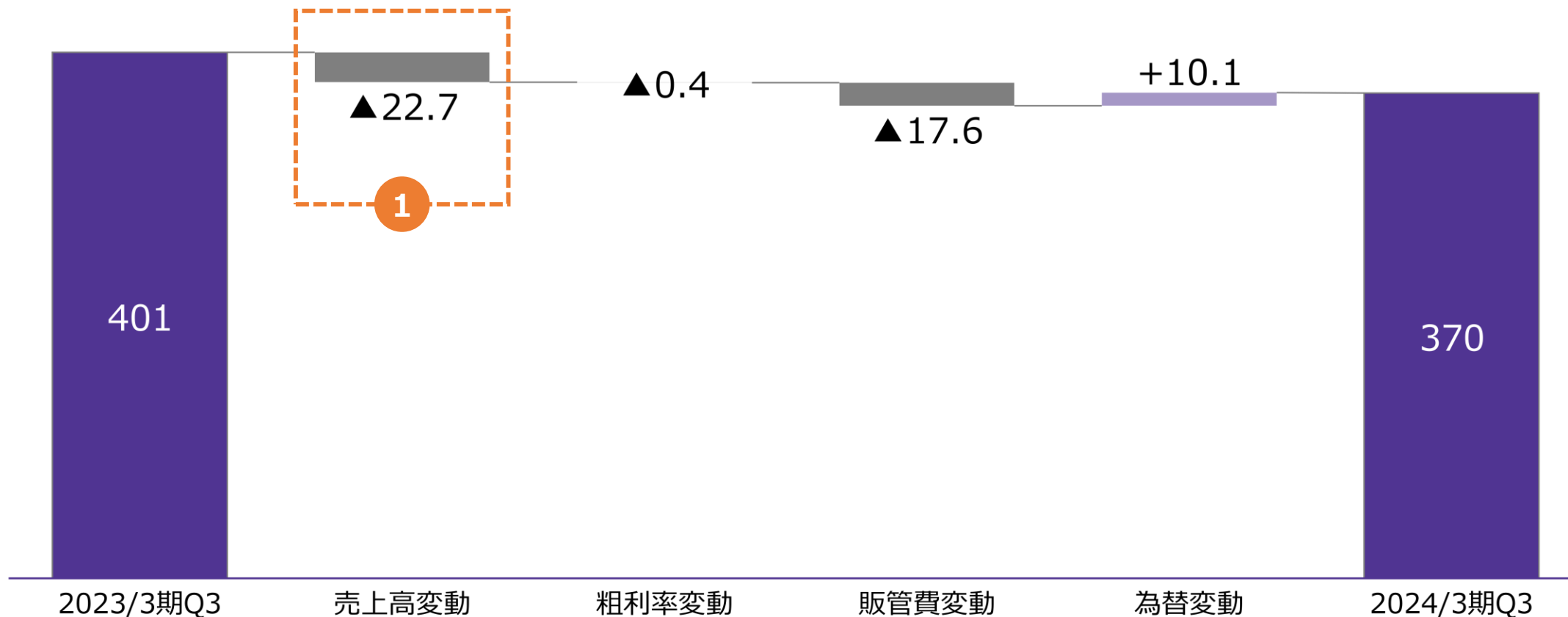
営業利益 +10億円

\*2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施。2023/3期の期首に株式分割が実施されたと仮定し算定。

# 営業利益の増減要因

1 売上高は17億円増加しているものの、為替変動に伴う売上増加額144億円を控除すると、実質減収。

(億円)



## 1 ダイフク

受注は、一般製造業・流通業向けや、前年度に前倒し受注や為替の影響で増加した半導体・液晶生産ライン向けが減少。売上は、一般製造業・流通業向け、半導体・液晶生産ライン向けが減収。

## 2 Daifuku North America

売上は、自動車生産ライン向け、空港向けがけん引。セグメント利益は、一般製造業・流通業向けの収益性改善と、自動車生産ライン向けの増収・収益性改善がけん引。

(億円)	受注高 (外部顧客からの受注高)			売上高 (外部顧客への売上高)			セグメント利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益)		
	2023/3期Q3	2024/3期Q3	増減額	2023/3期Q3	2024/3期Q3	増減額	2023/3期Q3	2024/3期Q3	増減額
1 ● ダイフク	2,419	<b>1,605</b>	▲814	1,775	<b>1,648</b>	▲126	185	<b>190</b>	+5
コンテック	151	<b>153</b>	+1	132	<b>138</b>	+5	4	<b>2</b>	▲2
2 ● Daifuku North America	1,683	<b>1,470</b>	▲213	1,122	<b>1,323</b>	+200	54	<b>97</b>	+43
Clean Factomation	402	<b>165</b>	▲236	320	<b>224</b>	▲95	27	<b>12</b>	▲15
その他	1,341	<b>1,087</b>	▲253	1,005	<b>1,045</b>	+40	45	<b>19</b>	▲25
関係会社からの配当金の消去	—	—	—	—	—	—	▲26	<b>▲58</b>	▲31
その他の連結上の調整額	—	—	—	1	<b>▲7</b>	▲8	▲3	<b>9</b>	+12
合計 (調整後)	5,998	<b>4,481</b>	▲1,516	4,356	<b>4,373</b>	+17	287	<b>274</b>	▲13

# 連結貸借対照表

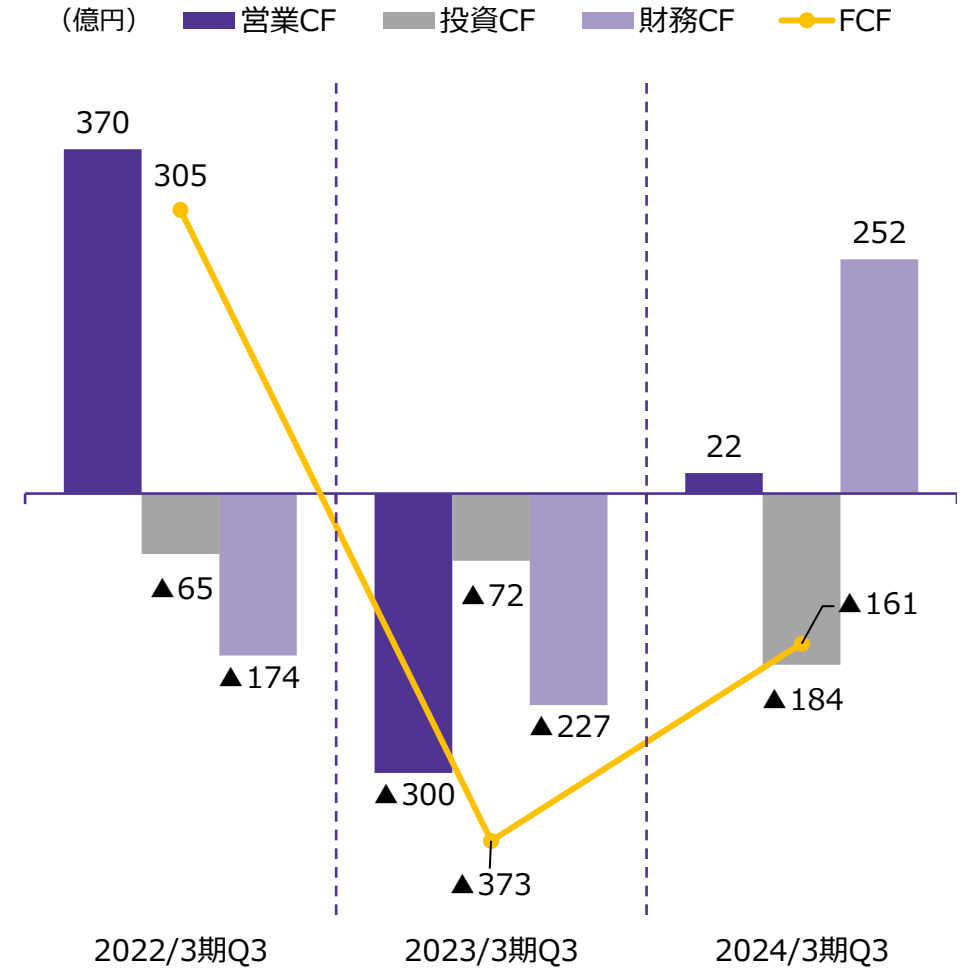
(億円)	2023年3月末	2023年12月末	増減額
流動資産	4,331	<b>4,926</b>	+594
現金及び預金	1,027	<b>1,193</b>	+165
売上債権	2,500	<b>2,754</b>	+254
棚卸資産	660	<b>769</b>	+108
その他	142	<b>208</b>	+66
固定資産	1,184	<b>1,477</b>	+293
有形固定資産	650	<b>773</b>	+123
無形固定資産	114	<b>109</b>	▲5
投資その他の資産	419	<b>594</b>	+175
資産合計	5,515	<b>6,403</b>	+888

(億円)	2023年3月末	2023年12月末	増減額
流動負債	2,028	<b>2,209</b>	+181
仕入債務	940	<b>850</b>	▲90
契約負債	639	<b>835</b>	+196
その他	448	<b>523</b>	+74
固定負債	164	<b>776</b>	+611
負債合計	2,192	<b>2,985</b>	+793
株主資本	3,082	<b>3,017</b>	▲65
純資産合計	3,323	<b>3,418</b>	+94
負債・純資産合計	5,515	<b>6,403</b>	+888



# 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)	2023/3期Q3	2024/3期Q3	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲300	<b>22</b>	+323
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲72	<b>▲184</b>	▲111
フリー・キャッシュ・フロー	▲373	<b>▲161</b>	+211
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲227	<b>252</b>	+480
現金及び現金同等物の期末残高	684	<b>1,179</b>	+494



# 仕向地別受注高・売上高

**1 日本**  
一般製造業・流通業、半導体・液晶生産ライン向けの受注が好調だった前年同期から減少。

**2 北米**  
売上は自動車生産ライン向け、空港向けが寄与。

**3 中国**  
受注・売上ともに半導体生産ライン向けが寄与。

**4 韓国・台湾**  
受注・売上ともに半導体メーカーの投資意欲が旺盛だった前年同期の実績を下回る。

(億円)		受注高				売上高					
		2023/3期Q3		2024/3期Q3		増減額	2023/3期Q3		2024/3期Q3		増減額
地域	国名		構成比		構成比			構成比		構成比	
<b>1</b>	日本	1,870	31.1%	<b>1,263</b>	<b>28.2%</b>	▲607	1,441	33.1%	<b>1,405</b>	<b>32.1%</b>	▲36
	海外	4,128	68.9%	<b>3,218</b>	<b>71.8%</b>	▲909	2,914	66.9%	<b>2,975</b>	<b>67.9%</b>	+61
<b>2</b>	● 北米	1,580	26.3%	<b>1,664</b>	<b>37.1%</b>	+84	1,095	25.2%	<b>1,359</b>	<b>31.0%</b>	+264
	● アジア	2,179	36.4%	<b>1,297</b>	<b>29.0%</b>	▲882	1,539	35.3%	<b>1,245</b>	<b>28.4%</b>	▲294
<b>3</b>	● 中国	776	13.0%	<b>852</b>	<b>19.0%</b>	+75	440	10.1%	<b>544</b>	<b>12.4%</b>	+104
<b>4</b>	● 韓国	518	8.6%	<b>204</b>	<b>4.6%</b>	▲313	462	10.6%	<b>275</b>	<b>6.3%</b>	▲187
	● 台湾	616	10.3%	<b>65</b>	<b>1.5%</b>	▲550	450	10.3%	<b>228</b>	<b>5.2%</b>	▲221
	● その他	268	4.5%	<b>174</b>	<b>3.9%</b>	▲94	186	4.3%	<b>197</b>	<b>4.5%</b>	+10
	● 欧州	131	2.2%	<b>144</b>	<b>3.2%</b>	+13	123	2.8%	<b>132</b>	<b>3.0%</b>	+9
	● 中南米	81	1.4%	<b>46</b>	<b>1.0%</b>	▲35	33	0.8%	<b>86</b>	<b>2.0%</b>	+52
	● その他	155	2.6%	<b>66</b>	<b>1.5%</b>	▲89	122	2.8%	<b>151</b>	<b>3.5%</b>	+28
	小計	-	-	-	-	-	4,355	100.0%	<b>4,380</b>	<b>100.0%</b>	+25
	連結調整等	-	-	-	-	-	1	-	<b>▲7</b>	-	▲8
	合計	5,998	100.0%	<b>4,481</b>	<b>100.0%</b>	▲1,516	4,356	-	<b>4,373</b>	-	+17

# 業種別受注高・売上高

## 1 自動車及び自動車部品、空港

北米での豊富な受注残高をベースに売上は順調に推移。

## 2 エレクトロニクス

前年度に前倒し受注した反動により減少。

## 3 商業及び小売業

日本のEC関連投資が一時的に停滞局面にあり、受注が前年同期から減少。

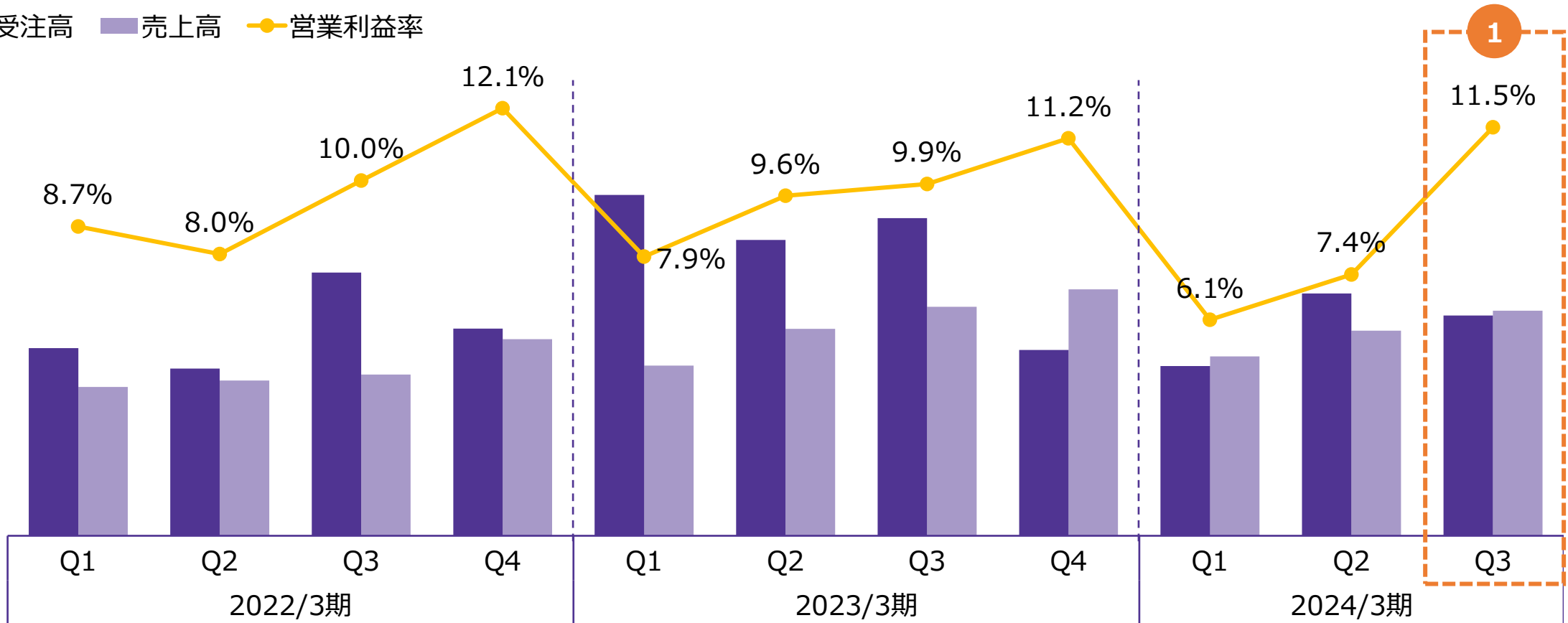
## 4 食品

北米で大型案件を受注。

業種	受注高					売上高				
	2023/3期Q3		2024/3期Q3		増減額	2023/3期Q3		2024/3期Q3		増減額
		構成比		構成比			構成比		構成比	
1 自動車及び自動車部品	640	10.7%	556	12.4%	▲83	438	10.1%	564	12.9%	+126
2 エレクトロニクス	2,399	40.0%	1,386	30.9%	▲1,012	1,593	36.6%	1,442	32.9%	▲150
3 商業及び小売業	1,638	27.3%	1,052	23.5%	▲586	1,208	27.7%	1,108	25.3%	▲99
4 運輸・倉庫	182	3.1%	197	4.4%	+14	226	5.2%	164	3.8%	▲62
機械	83	1.4%	97	2.2%	+13	82	1.9%	75	1.7%	▲6
化学・薬品	261	4.4%	198	4.4%	▲62	160	3.7%	182	4.2%	+22
4 食品	134	2.2%	363	8.1%	+229	107	2.5%	128	2.9%	+20
鉄鋼・非鉄金属	36	0.6%	51	1.1%	+14	33	0.8%	39	0.9%	+5
精密機器・印刷・事務機	52	0.9%	29	0.7%	▲23	42	1.0%	30	0.7%	▲12
空港	418	7.0%	386	8.6%	▲32	329	7.6%	470	10.7%	+141
その他	151	2.4%	163	3.7%	+12	133	2.9%	172	4.0%	+38
小計	-	-	-	-	-	4,355	100.0%	4,380	100.0%	+25
連結調整等	-	-	-	-	-	1	-	▲7	-	▲8
合計	5,998	100.0%	4,481	100.0%	▲1,516	4,356	-	4,373	-	+17

1 日本と北米の一般製造業・流通業向けで原材料・人件費のコスト増の価格転嫁の進展と、半導体・液晶生産ライン向けで採算性の高い案件が進捗したこと、自動車生産ライン向けの増収により、収益性が改善。

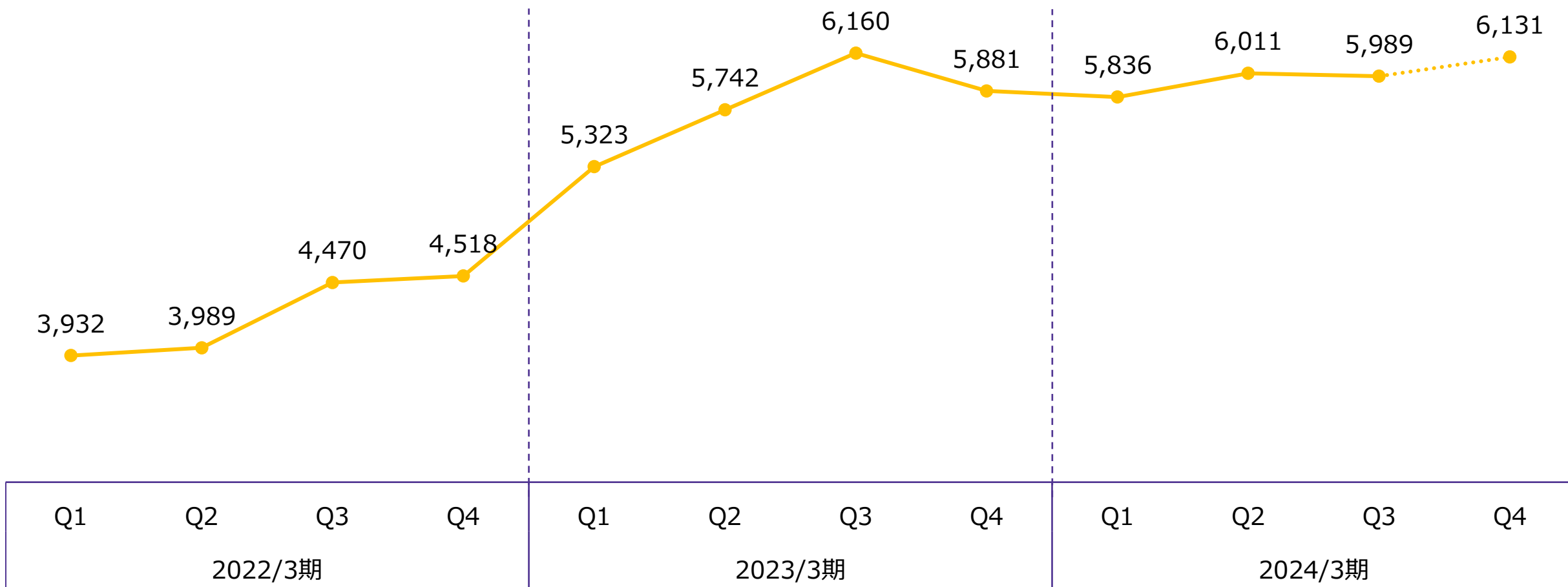
(億円) ■ 受注高 ■ 売上高 ● 営業利益率



# 受注残高の推移

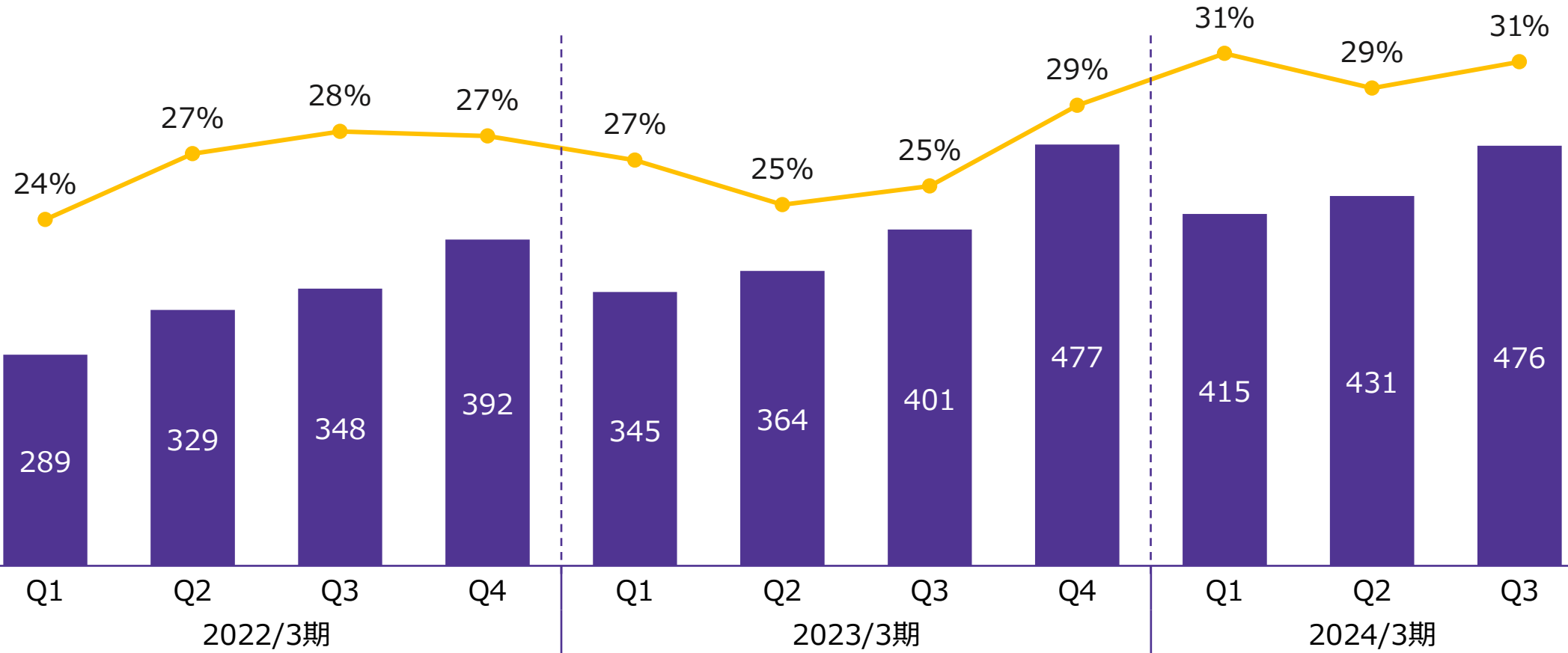
前年度に半導体・液晶生産ライン向けを前倒し受注したこともあり、受注残高は高水準を維持。

(億円)



サービス売上高はQ3累計で1,323億円となり、着実に増加。

(億円) ■ サービス売上高 ● 対売上高比率



通期売上高	1,360	1,588	1,828 (予想)
-------	-------	-------	------------

# 業種別受注高 四半期推移

(億円) 業種	2022/3期				2023/3期				2024/3期				
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3 (a)	Q4	Q1	Q2	Q3 (b)	構成比	前年同期比 増減額 (b-a)
自動車及び自動車部品	153	170	130	120	180	224	235	257	<b>195</b>	<b>190</b>	<b>170</b>	<b>11.1%</b>	<b>▲64</b>
エレクトロニクス	449	416	753	715	984	872	542	314	<b>406</b>	<b>582</b>	<b>397</b>	<b>25.8%</b>	<b>▲144</b>
商業及び小売業	401	435	473	259	503	341	793	240	<b>222</b>	<b>271</b>	<b>557</b>	<b>36.2%</b>	<b>▲235</b>
運輸・倉庫	125	42	87	50	54	62	65	105	<b>68</b>	<b>63</b>	<b>64</b>	<b>4.2%</b>	<b>▲1</b>
機械	15	39	8	16	42	22	18	32	<b>23</b>	<b>29</b>	<b>44</b>	<b>2.9%</b>	<b>+25</b>
化学・薬品	43	58	53	66	114	89	56	69	<b>80</b>	<b>67</b>	<b>50</b>	<b>3.3%</b>	<b>▲6</b>
食品	48	22	21	70	31	36	66	38	<b>68</b>	<b>241</b>	<b>53</b>	<b>3.5%</b>	<b>▲12</b>
鉄鋼・非鉄金属	16	9	9	16	15	9	11	17	<b>22</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>1.0%</b>	<b>+4</b>
精密機器・印刷・事務機	11	17	12	13	24	19	7	8	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>0.7%</b>	<b>+2</b>
空港	77	17	160	76	109	195	113	204	<b>135</b>	<b>122</b>	<b>128</b>	<b>8.3%</b>	<b>+14</b>
その他	39	58	32	70	45	18	86	86	<b>67</b>	<b>50</b>	<b>45</b>	<b>3.0%</b>	<b>▲40</b>
合計	1,384	1,288	1,741	1,476	2,106	1,894	1,997	1,376	<b>1,300</b>	<b>1,642</b>	<b>1,538</b>	<b>100.0%</b>	<b>▲458</b>

# 業種別売上高 四半期推移

(億円)	2022/3期				2023/3期				2024/3期				
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3 (a)	Q4	Q1	Q2	Q3 (b)	構成比	前年同期比 増減額 (b-a)
自動車及び自動車部品	137	139	150	162	115	147	175	216	<b>161</b>	<b>191</b>	<b>211</b>	<b>13.4%</b>	<b>+35</b>
エレクトロニクス	400	319	357	436	432	526	634	564	<b>449</b>	<b>485</b>	<b>508</b>	<b>32.2%</b>	<b>▲126</b>
商業及び小売業	372	409	341	427	416	404	387	400	<b>362</b>	<b>360</b>	<b>385</b>	<b>24.4%</b>	<b>▲1</b>
運輸・倉庫	60	78	90	99	82	77	66	77	<b>48</b>	<b>49</b>	<b>66</b>	<b>4.2%</b>	<b>+0</b>
機械	20	24	31	38	29	30	21	21	<b>20</b>	<b>25</b>	<b>29</b>	<b>1.9%</b>	<b>+7</b>
化学・薬品	39	38	40	58	42	57	60	86	<b>61</b>	<b>59</b>	<b>61</b>	<b>3.9%</b>	<b>+1</b>
食品	30	65	47	57	31	33	42	50	<b>28</b>	<b>46</b>	<b>52</b>	<b>3.3%</b>	<b>+10</b>
鉄鋼・非鉄金属	5	9	8	12	7	11	14	14	<b>12</b>	<b>14</b>	<b>11</b>	<b>0.8%</b>	<b>▲2</b>
精密機器・印刷・事務機	15	14	14	17	11	16	15	21	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>11</b>	<b>0.7%</b>	<b>▲4</b>
空港	95	99	142	100	91	113	124	132	<b>142</b>	<b>160</b>	<b>167</b>	<b>10.6%</b>	<b>+43</b>
その他	28	33	40	33	43	48	42	57	<b>49</b>	<b>50</b>	<b>72</b>	<b>4.6%</b>	<b>+30</b>
小計	1,207	1,232	1,263	1,444	1,303	1,467	1,584	1,642	<b>1,349</b>	<b>1,451</b>	<b>1,579</b>	<b>100.0%</b>	<b>▲4</b>
連結調整等	<b>▲5</b>	<b>▲0</b>	<b>▲3</b>	<b>▲16</b>	<b>▲1</b>	7	<b>▲5</b>	19	<b>▲4</b>	<b>15</b>	<b>▲18</b>	-	<b>▲13</b>
合計	1,202	1,232	1,260	1,427	1,302	1,475	1,579	1,662	<b>1,345</b>	<b>1,467</b>	<b>1,561</b>	-	<b>▲17</b>



目次へ

# トピックス



# 滋賀事業所の第二高層棟が完成

当社のマザー工場である滋賀事業所内に第二高層棟が竣工し、最新の高速・高層自動倉庫クレーン（以下、最新高層クレーン）の走行実験を開始しました。

インフラロジスティクス事業部門では、2006年に滋賀事業所内に高層研究棟を竣工し、高さ30メートルクラスの高層自動倉庫クレーンの各種実験・開発に取り組んできました。このたび、高さ40メートルクラスの最新高層クレーンの評価を行うため、第二高層棟を新設しました。

## 第二高層棟の概要

所在地	滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225 株式会社ダイフク 滋賀事業所内
建物面積	約1,300m <sup>2</sup> 全長約83m、幅約15.5m、高さ約52m
投資金額	約14億円
稼働開始時期	2023年11月



「ダイフク環境ビジョン2050」で設定したCO<sub>2</sub>排出量削減目標が、パリ協定に準じた科学的根拠に基づく目標と認められ、2023年11月にSBT（Science Based Targets）イニシアティブ<sup>※1</sup>より認定を取得いたしました。



「ダイフク環境ビジョン2050」（2023年5月改定）では、「気候変動への対応」を重点領域の一つとして設定し、各拠点における再生可能エネルギーの導入、当社製品の稼働や調達活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減などに取り組んでいます。

※1 CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）が共同で設立した国際的な機関。

パリ協定が定める水準と整合した科学的根拠に基づく目標を設定していると認められる企業に対して、認定を付与している。

※2 スコープ3のカテゴリ1 およびカテゴリ11合わせたの目標

※3 Well Below 2℃（2℃を十分下回る水準）

## 「ダイフク環境ビジョン2050」で設定しているCO<sub>2</sub>排出量削減目標

KPI（実績評価指標）	2030年目標
自社CO <sub>2</sub> 排出量（スコープ1+2）	2018年度比 50.4%削減 （1.5℃水準）
購入した製品・サービスに伴うCO <sub>2</sub> 排出量 （スコープ3 カテゴリ1）	2018年度比 30%削減 <sup>※2</sup> （WB <sup>※3</sup> 2℃水準）
販売した製品の使用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量 （スコープ3 カテゴリ11）	

### 関連情報

> ダイフク環境ビジョン2050

<https://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management/#sec02>

> 当社グループの気候変動に対する取り組み

<https://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/climate-change>

> SBTイニシアティブのウェブサイト

<https://sciencebasedtargets.org>

# DAIFUKU

## Automation that Inspires

### 将来の見通しに関する注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する目標、信念、計画等は、過去の事実ではなく、最新の情報から判断した経営陣の想定や信念に基づく事業見通しであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでいます。実際の業績は、さまざまな重要要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要要素としては、1) 当社グループの経営環境における消費者動向および経済情勢、2) 米ドルその他の通貨建ての売上・資産・負債に対する円為替レートの影響、3) コスト上昇や販売の抑制につながる安全その他に関する法令等の規制強化、4) 災害・戦争・テロ・ストライキ・疾病等の影響などが含まれます。なお、当社グループの業績に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。